

# 京都市観光に対する 若者の意識

大阪商業大学 商学科 宮城ゼミ  
執筆者: 前田千佳



## 1. 研究目的

私たちにとって京都は、日本古来の建造物が立ち並び世界遺産も多く、ランキングサイトでは株式会社Hayakawaが行っている『クチコミランキング!』で京都第一位、株式会社昭交社が行っている『MAPPLE 観光ガイド』で京都の祇王寺第一位など、日本人誰もが認める代表の観光地であると考えていた。しかし、現状は近畿圏内の人々によって支えられた観光地でしかなく、特に30歳代や男性に関して問題のあることが分かった。このように私たちの考えていた京都の姿と現状の相違点を知ったことで、京都観光における問題点をもっと知りたくなり、また解決に少しでも貢献できるのであればしたいと考え、研究を行うこととした。

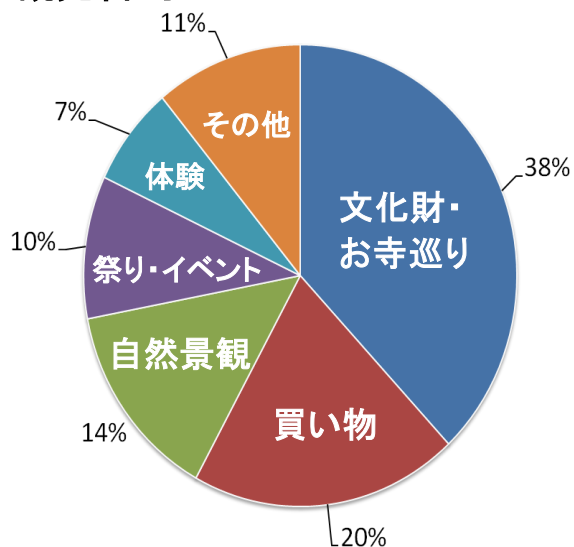
## 2. 研究対象

京都市観光における問題点は、「観光客の偏り」ということであるが、具体的課題のひとつとして「季節によつての集客方法」という点があると考えられる。『京都観光総合調査』(京都市産業観光局)によると、平成22年度での観光客の個別感動度割合において最も高かったのは「自然・風景」であり、その点から分かるように京都にとって四季折々のものは重要な要素である。しかし、春や秋には桜・紅葉など風物詩があるものの、夏や冬にはこれといった特徴がなく、観光客の集客方法が無いため一年での観光客数の偏りが生じ、また風景を楽しむといった点において京都特有という部分があり見られない。このために男性や30歳代以下の年代にアプローチが足りない原因となっているのではないかと考えた。そこで、京都観光客において、20歳代以下時点での意識に何か理由があるのではないかとし、我々の大阪商業大学内の男子学生100名に対して第一回アンケートを六月下旬に、さらに詳しく研究するために、女子学生も含めた大阪商業大学生に第二回アンケートを七月下旬に実施した。

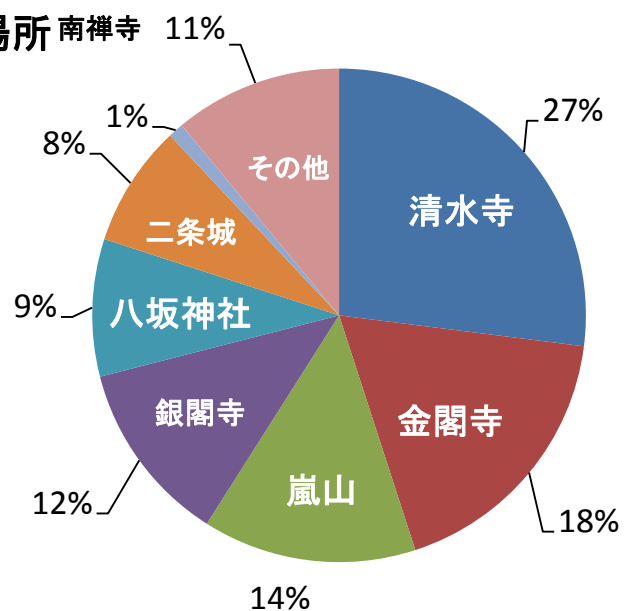
## 3. 研究結果

- 調査日 : 2012年6月上旬, 7月下旬(共に一週間)
- 回答者数 : 合計227名
- 京都市観光の有無 : 近畿圏内ということもあり、京都観光有の方が83%と多い。
- 訪れた季節 : 春(27%)・秋(32%)のほかに夏(26%)も多いことが分かったが、やはり冬(15%)は少ない。
- 観光目的 : 文化財・お寺巡りが38%と一番多かったが、買い物20%、祭り・イベント10%と人気を集めた。  
→特に祭り・イベントに関しては、京都市観光調査年報のデータよりも著しく高く、年齢別で関心の違いが際立った。
- 観光場所 : 清水寺27%、金閣寺18%、嵐山14%と全国的に有名な観光地があがった。しかし、京都市観光調査では上位に入っていた南禅寺が、我々の行った調査ではあまり人気がなく、南禅寺よりも下位であった八坂神社が上位に入った。  
→京都観光調査年報の全年齢を対象とした結果との差も見られた。

観光目的



観光場所



## 4. 考察

### ○夏・冬の違い、祭り・イベントの人気

夏の人気に関しては、花火や祭りなど10代20代好みのイベントが多いため、京都を訪れる機会が増えるのではないかと考えられる。冬にも夏のように、大きなイベントを開拓できれば、大きな集客が見込める。

### ○南禅寺の不人気

我々の行った調査では南禅寺を訪れた人はわずか1%となった。京都市観光調査年報の10代訪問地調でも、上位の南禅寺が9.6%、その一つ下位の八坂神社が19.2%と大きく差が開いた。これについては、清水寺と八坂神社の位置関係に近いことによるものであると考えられる。しかし20代となると南禅寺が9.9%、八坂神社が8.6%と逆転した。これは10代で一度八坂神社に行き、20代になり数回目の訪問で別のところを回ったからではないかと推測できる。

## 5. 研究成果の公開



2012年8月23日(木)

東北亜観光学会学生セッション(韓国全羅北道全州市)において  
渡邊玲美、山本真生、宮脇瀬里菜、渡邊菜、前田千佳、山川莉紗  
(2012)「京都市観光に対する 若者の意識」The 2nd  
International Students Academic Conference TINA p.81-83

## 6. 今後の方針

関西圏以外における若年層は観光経験があるのか、男性・若年層が何に関心があるのか、文化財・お寺巡りの内訳について、年代別でなぜ異なるのか、祭り・イベントについて、どのようなものが人気があるのか、何故人気があるのか、最後に京都市における夏・冬の魅力についての調査をしていく必要がある。この研究が成功すれば、関西の活性化につながり、日本の景気回復への糸口をつかむことも出来ると考えている。その意思を強く持ち、今後の研究を進めていきたいと思う。